

業 務 速 報

NO. 1012
2015.11.2
J R 東海労働組合
発行 小林 光昭
編集 加藤 光典

2016年度年末手当の支給に関する第3回団体交渉 年末手当3.0ヶ月回答不満！ 業績の反映・社員の努力にしっかりと応えるべきだ！

本部は11月2日、2016年度年末手当第3回団体交渉を開催した。会社は回答にあたって、「社員の努力が堅調な業績の下支えもあり、第2四半期の運輸収入が対前年比で101.1%となり、通期における業績も上方修正した。今後中央新幹線の建設をはじめ各種施策を着実に進めるにあたり経営体力を一層強化することが課題だ。今春は3年連続となるベースアップも実施した。賃金をはじめとする当社の労働条件は、世の中の相場と比較して既に高い水準となっている。様々な状況を総合的に勘案して、今年度の年末手当は3.0ヶ月分支給することとした」と発言した。

本部は、組合要求3.5ヶ月をはるかに下回る支給月数であり、社員の労苦に全く応えていない回答に対して、「大いに不満である」と強く表明し、再申し入れを行う。

2016年度年末手当の会社回答

1. 支払い月数は、3.0ヶ月分とする

(基礎額は11月1日現在の基準内賃金、補償措置額)

2. 支給日は、12月9日以降準備でき次第とする

組合：5期連続で最高益である。それは社員の苦労が何よりものの源である。夏よりも下げた回答など到底納得できない。持ち帰り検討するが、再申し入れとなると考える。

本部は、「回答」を不満として持ち帰り検討の結果、再申し入れを行います。

会社回答時発言

平成 28 年度年末手当交渉 回答時発言

当社の第 2 四半期累計期間における業績は、運輸収入がビジネスを中心にご利用が堅調に推移したことにより対前年 101.1%となり、通期における業績予想も上方修正しました。今後、中央新幹線の建設をはじめとした各種施策を着実に進めるにあたり、会社の経営体力を一層強くすることは、日本の大動脈輸送を担う当社にとって重要な課題です。

一方で、今春は 3 年連続となるベースアップを実施しましたが、当社の期末手当を含めた賃金水準は、J R 他社はもちろん、世の中の相場と比較しても既に高い水準にあります。鉄道事業を中心に、公益性の高い業務を長期的な観点から営む当社としては、期末手当は、業績給としての性格は勘案しつつも、短期的な変動に左右されることなく安定的な支給を維持することが大切であると考えています。

以上の観点を踏まえ、伊勢志摩サミットの期間を含め安全安定輸送を確保し、また中央新幹線建設や名古屋ゲートタワー計画をはじめとする各種施策の着実な推進に尽力した社員の努力が堅調な業績を下支えたことに、会社として精一杯報い、今後とも各種施策の着実な推進に向け一層奮起することを強く期待して、社員一人ひとりの努力によりきめ細やかに応えとともに、年末手当の安定的支給ベースである 2.9 箇月分に、0.1 箇月分を上積みし、3.0 箇月分支給することとしました。

今後の経営環境を見通すと、当社は安全安定輸送の確保を大前提に、サービスに磨きをかけ、収益を一層拡大し、低コスト化や効率的な業務遂行体制の構築等を行って、経営基盤を更に盤石なものにしていかなければなりません。今回の回答を踏まえ社員の皆さんには、当社で働くことへの自負と責任感を強く持ち、お客様の信頼に応え続けるべく完璧な仕事を目指して一層精励されることを強く期待します。